

## SNS が与えてくれた繋がり

香川県立観音寺第一高等学校 1年 宮前璃子

現在、スマートフォン利用者のほとんどが Twitter、Facebook、Instagram、LINE などの SNS には簡単にデータの共有ができる。災害時などの情報発信、受信に役立つなど、今や生活にかかせないものとなりつつある。このようにとても便利なツールである反面、SNS は多くの危険も伴う。個人情報や他人に暴露されてしまう、覚えのない入金や商品の購入を促すメールが送られてくる... など SNS でのトラブルは後を絶たない。便利になっていくのに比例し欠点も多くなってしまふ。そして人は、どうしても物事の悪い面ばかりに目を向けてしまいがちだ。しかしだからこそ、今回は SNS の良い点にフォーカスをあてていきたい。



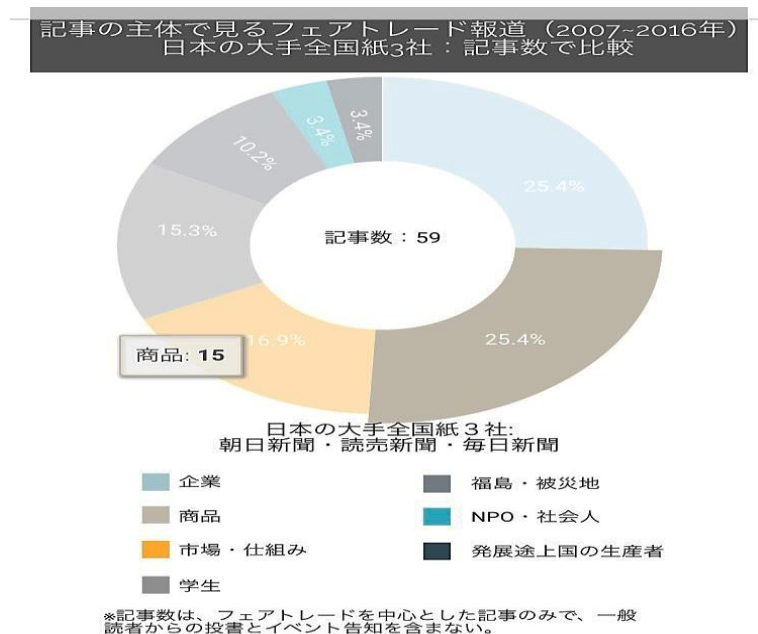
発展途上国の貧困問題を解決するために、日々の消費生活のなかで実践できる取り組みとしてフェアトレードがある。現在、子供を含む生産者が劣悪な労働環境の中で何十時間も働いて完成した製品を、消費者である先進国の人間が非常に安い価格で購入する「アンフェアトレード」が当たり前のように行われている。フェアトレードとは、このような現状を打破するために国際フェアトレード基準で定められた貿易基準に沿って取引することで、先進国と発展途上国の格差の改善を目指す取り組みである。しかし日本では他の先進国に比べて、フェアトレードの取り組みが盛んではない。



これは、フェアトレード認証商品の国民一人当たりの売上高のグラフだ。グラフを見ると日本は先進国の中でも最低の水準である。なぜ日本はこんなにも他の先進国と差がついてしまっているのか。私は、その原因が日本国民のフェアトレードの知識量の少なさと、フェアトレードに対し間違った先入観を持っていることにあると考えた。

日本のフェアトレード認知度は3割にしか満たない。日本人の3割しかこの豊かな暮らしが発展途上国の重労働の上に成り立っていることを知らないのだ。では、他国の情報や、リアルな実態について考える機会を与える役割を担っているメディアは、どの程度フェアトレードに

ついて報道しているのだろう。



グラフを見ると日本のフェアトレードに関する報道は企業が行っている取り組みや、フェアトレード商品の紹介に偏っていて、一番フェアトレードの影響を受ける生産者貧困の実態やフェアトレードの問題点についてはほとんど報道されていないことがわかる。日本のフェアトレードの報道は、企業や人々がいかに貧困国に貢献したかばかりに目を向けている。日本の学生のフェアトレードに対する取り組み、フェアトレードを導入した会社の紹介など、自分たちの善行をアピールしているにすぎない。「生産者との強いつながり」「生産者に想いをはせる」などのフレーズが様々な記事で見受けられたが、日本のメディアが注目しているのはあくまでフェアトレードに貢献した「私たち」であって、生産者に実際どのような効果をもたらしたのか、解決すべき問題点は何なのかなどの生産者サイドの情報は発信されない。

そこで私は、皆がフェアトレードについて理解し多くの人に参加できる機会を作るために、SNS を駆使すべきだと考えた。フェアトレード商品を紹介することも大切だが、私はその前に、そもそもフェアトレードとはどういうものなのか、ということ世の中に広めるべきだと思う。フェアトレードについて投稿している人をたまに見かけるが、そのうちの多くの人々が、フェアトレードを発展途上国への奉仕活動と捉えている節があり、このような投稿が間違った先入観をうえつけてしまう。本来、フェアトレードは発展途上国で生産された商品を適正な、公平な価格で買い取るものであって先進国が作り上げた不平等な関係を平等な関係に戻すものでしかない。つまりフェアトレードは、私たちによって貧困な生活へと追い込まれた人々が同じスタートラインに立つことができるようにするために生まれた活動だ。

○フェアトレードに参加する為に必要な基本的な知識

○貧困国の現状や問題点

○歴史的背景

このような情報を発信し、フェアトレードは貧困国への援助ではないという意識や、対等な関係を築き、不公平な貿易を変えていくための第一歩になる、という考えを持ってほしい。

中にはフォロワーが少ないから投稿しても意味がないんじゃないか？と思う人もいるかもしれない。しかし投稿を見た人の中で一人でもフェアトレードに興味を持ち、理解してくれたのなら、それはとても大きな意味をもっているのだと思う。誰もが手軽に情報を得ることができる、それが SNS の魅力だ。

他にも、フェアトレードについての絵本を SNS でオンライン読み聞かせをする機会を設けたらいいと思う。例えば谷川俊太郎の「そのこ」や宮原桃子の「ムクリのにじいろ T シャツ」。どちらも貧しさから過酷な状況で働かざるをえない子供たちと私たちの日々の消費での繋がり、日々の私たちの暮らしのありがたさを読者に教えてくれる本だ。私たちの身の回りにある多くのものの裏側には、十分に生活することができない賃金で働かされ教育を受ける機会を奪われている子供がたくさんいる。そのことを子供たちが知ること、フェアトレードの重要性や教育を受けられることは決して当たり前ではない、ということに気づくことができるだろう。そしてこの読み聞かせは、子供はもちろん、学生や大人にも、とても有意義なものになるはずだ。

私たちは、貧困国の人とは直接繋がることはできないかもしれない。しかし、フェアトレードの正しい情報を発信し、できる限り多くの人にその想いを伝え続けることで、間接的にその想いを届けることができる。その想いは過酷な生活を強いられている人々の心の励みになるだろう。

新型コロナウイルス感染症が広まっている今、実際に会えなくても繋がることのできる SNS がより私たちの生活で重要な役割を担うようになった。オンライン飲み会やオンライン授業などのオンライン機能の利用のおかげでコロナ禍繋がりを絶たれた状況の中、人と繋がることのできた。そしてそれを機に学校、年齢、国の垣根を越えた輪が一気に広がった。SNS は私たちに新たな繋がりの方を与えてくれる。中には、そのような今までとは違う繋がりに抵抗がある人もいるだろう。実際、私もそうだった。しかし、SNS を通じて新たな友人ができた、長い間音信不通になっていた親戚と連絡を再開できたりするなどの経験を通して、SNS がなければこのような繋がりを望むことはできなかつたらうなと気づくことのできた。そして今は SNS に本当に感謝している。

私たちは SNS のデメリットばかり見ている。何のために SNS が作られたのか。おそらく、多くの人と繋がり、情報を発信し、考えを共有し合うためだろう。それにもかかわらず、一部の人が SNS を人を傷つけるための鋭利な凶器として扱うせいで、SNS は悪く危険なものだ、というイメージが植え付けられてしまっている。

SNS はこれからも益々発展を遂げていくだろう。想像ができないほどに便利な機能ができより大きな問題が起こるかもしれない。しかしそのことを恐れ、SNS を使わなければ SNS

でしか繋がることのできない多くの人との繋がりも絶つことになり交流の幅を自ら狭めてしまうことになりかねない。だから一人ひとりが SNS のメリットとデメリットの両方をしっかりと理解した上で、どちらの面も受け入れ、より良い使い方を模索していくべきだ。私たちは周りとの繋がりなしでは生きていくことはできない。だから自分と周り、両方の幸せを実現できるような社会にするために新たなコミュニケーション方法、SNS を介した繋がりを皆が受け入れられるような未来を目指していきたい。

#### 参考文献

<https://okirec.ti-da.net/e11725274.html>

<https://globalnewsview.org/archives/5917>